

# 会 社 工 場 概 要

041

株式会社 トウザキ 生コン工場

〒133-0073

東京都江戸川区鹿骨1丁目8番12号

TEL 03 (3679) 2391

FAX 03 (3679) 2369

2024年9月1日現在

## — 目 次 —

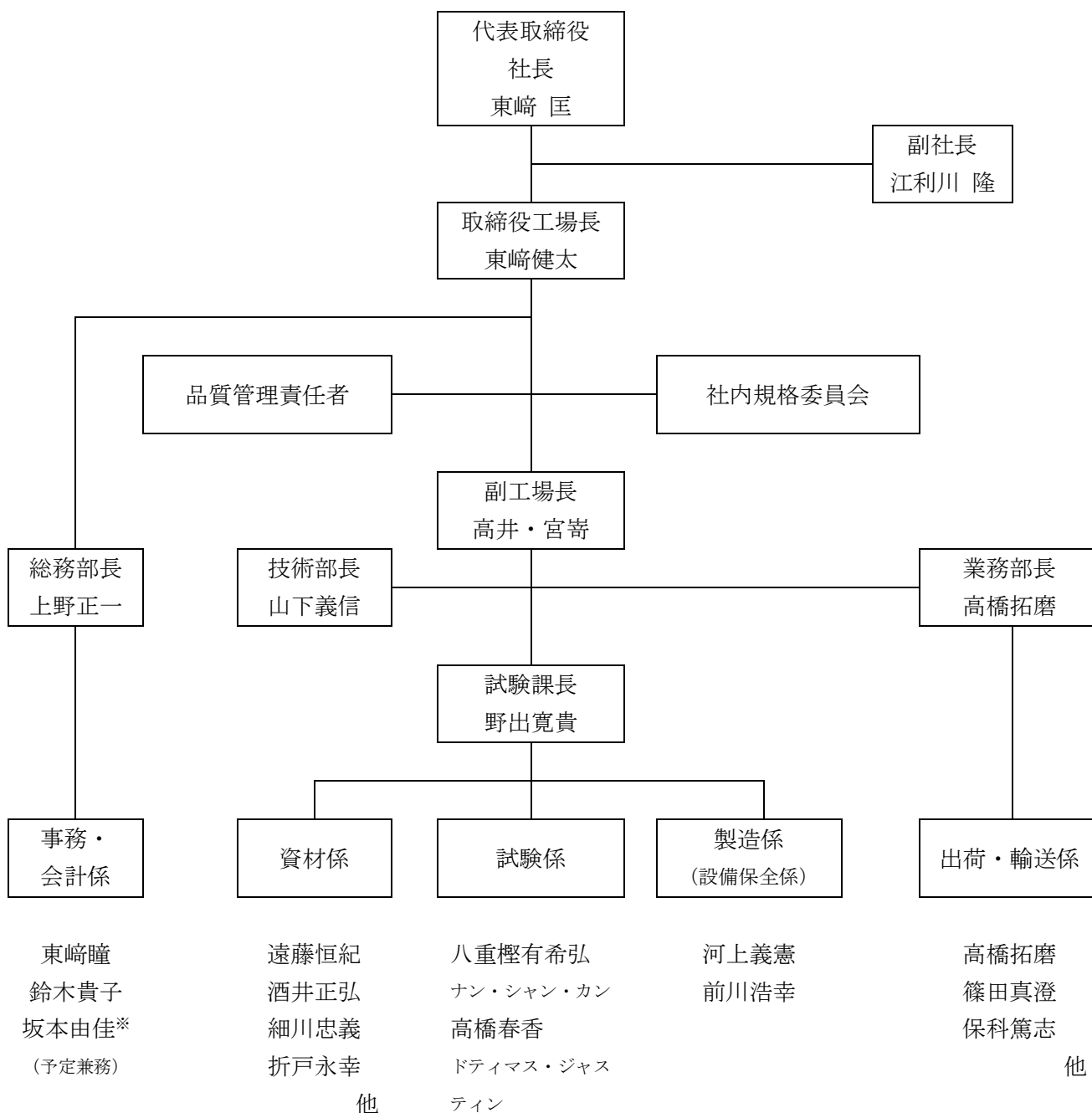
1. 会社工場に関する事項	
① 工場の概要	2
② 工場人員構成（組織図）	3
③ 品質管理責任者	4
④ 公害防止管理者	4
⑤ 有資格者	4
2. 主要原材料の銘柄、種類、産地	5
3. 主要製造設備、検査設備の概要	6～8
4. 受入検査における品質管理の概要	9
5. 製造工程における品質管理の概要	10
6. 荷卸し地点における品質管理の概要	11
7. 製造工程図	12
8. 工場位置図	13
9. 工場配置図	14
10. 運搬車両及び車両設備	15

## 1. 会社工場に関する事項

### ① 工場の概要

社名	株式会社 トウザキ 生コン工場
沿革	昭和40年10月 東崎建材設立 昭和55年10月 株式会社 トウザキ設立 昭和57年5月 日本工業規格表示許可認可 (TC0307094) 平成17年4月 高強度コンクリート大臣認定取得 平成19年7月 日本工業規格適合性認証 (新JIS) 平成26年7月 高強度コン・大臣認定取得 (MCON-3101)
代表取締役社長	東崎 匡
資本金	4000 万円
事業目的	生コンクリートの製造・販売
工場所在地	〒133-0073 東京都江戸川区鹿骨 1-8-12 TEL: (03)3679-2391(代表) FAX: (03)3679-2369 URL: <a href="http://www.touzaki.co.jp/">http://www.touzaki.co.jp/</a>
加入共同組合	東京地区生コンクリート協同組合 東関東生コン協同組合
加入工業組合	東京都生コンクリート工業組合
供給エリア	東京都 江戸川区・墨田区・江東区・台東区・文京区・千代田区 中央区・荒川区・足立区・葛飾区・新宿区 (市ヶ谷) 千葉県 市川市・船橋市・浦安市

## ② 組織図



工場連絡責任者			
営業関連	副社長	江利川 隆	03(3679)2391
出荷関連	業務部長	高橋 拓磨	
総務関連	総務部長	上野 正一	
技術関連	技術課長	野出 寛貴	

### ③ 品質管理責任者 (QMR)

正：高井悠一

副：野出寛貴、倉場俊昭

### ④ 公害防止管理者

正：倉場俊昭

副：細川忠義

### ⑤ 有資格者

氏名	コンクリート 技士	コンクリート 主任技士	コンクリート 診断士	品質管理責任者	IQC フォローアップ
山下義信		○	○	○	
倉場俊昭		○		○	○
高井悠一		○		○	
東崎健太	○			○	
野出寛貴	○			○	
八重樫有希弘	○			○	
高橋春香				○	

氏名	公害関係				
	水質	粉塵	特化物作業主任者	安全衛生推進者	東京都公害防止管理者
東崎健太		○	○	○	第一種
倉場俊昭	○	○	○	○	第一種
高井悠一		○	○		第一種
細川忠義		○			第一種
高橋哲也					第二種

氏名	車両系建設機械	大型特殊	交通予知訓練終了者	運行管理責任者
東崎健太	○	○	○	
高井悠一	○	○		
倉場俊昭	○			
高橋哲也	○	○	○	※
遠藤恒紀	○	○		
宮寄武士	○	○		○
細川忠義	○	○		
酒井正弘	○	○		
野出寛貴		○		
高橋拓磨				○
河上義憲		○	○	○

※安全運転管理者

## 2. 主要資材の銘柄・種類・産地

種別	種類	産地	生産者又は製造業者
セメント	普通ポルトランドセメント	習志野 SS	住友大阪セメント株式会社
	高炉セメント B 種		
	中庸熟セメント	鶴見 SS	
混和材	フライアッシュ II 種	碧南火力発電所	株式会社テクノ中部
細骨材	砕砂 (東谷) (石灰岩)	福岡県北九州市小倉南区	UBE 三菱セメント株式会社
	砕砂 (茨城) (硬質砂岩)	茨城県笠間市箱田	株式会社オーリス
	砕砂 (葛和田) (硅岩)	栃木県佐野市閑馬町	飯田建材工業株式会社
粗骨材	砕石 2010 (秋芳) (石灰岩)	山口県美祢市秋芳町	住友大阪セメント株式会社 秋芳鉱山
	砕石 1505 (秋芳) (石灰岩)		
	砕石 2005 (葛和田) (硅岩)	栃木県佐野市閑馬町	飯田建材工業株式会社
水	地下水・上水道水	工場敷地内	—
AE 調整剤	フローリック AE-4	愛知県名古屋市中熱田前	株式会社フローリック
混和剤	フローリック SV10		
	フローリック RV10		
	フローリック SF500S		
	フローリック SF500R		
	フローリック SF500H		
	シーカメント J	神奈川県平塚市長瀬	シーカ・ジャパン株式会社
	シーカメント JR		
	シーカメント 1100NT		
シーカメント 1100NTR			

### 3. 主要製造設備及び検査設備の概要

#### 主要製造設備

工程名	製造設備名	公称能力	台数	備考	
原材料 ストック 設備	セメントサイロ C1	200t	1	防水防湿	
	C2	100t	1		
	C3	50t	1		
	混和材サイロ C4	30t	1		
	セメント貯蔵ビン		10t	3	
			2t	1	
	屋根付き 骨材ストック ヤード	砕砂（茨城）	320t	1	異種骨材の混合防止
		砕砂（東谷）	240t	1	
		砕砂（葛和田）	160t	1	
		砕石 2010（秋芳）	160t	1	
		砕石 1505（秋芳）	400t	1	
		砕石 2005（葛和田）	400t	1	
	市川港屋根付き骨材 ストックヤード	砕石（2010）	5000t	1	異種骨材の混合防止 自社専用
砕石（1505）		5000t	1		
砕石（2005）		5000t	1		
砕砂（東谷）		5000t	1		
骨材貯蔵ビン	砕砂（茨城）	32t	1		
	砕砂（東谷）	16t	1		
	砕砂（葛和田）	16t	1		
	砕石 2010（秋芳）	24t	1		
	砕石 1505（秋芳）	24t	1		
	砕石 2005（葛和田）	24t	1		
化学混和剤 樹脂製タンク	フローリック SF500S/R	8000L	1	高性能 AE 減水剤	
	フローリック SF500F	4000L	1	高性能 AE 減水剤	
	予備タンク	5000L	1		
	フローリック SV/RV	8000L	1	AE 減水剤	
	フローリック SV10/RV10	8000L	1	AE 減水剤	
AE 調整剤	フローリック AE-4	4000L	1		
水	清水（地下水・上水道水）	80t	1		
	回収水（上澄み水）	40t	1		
材料 輸送 設備	セメント C1 用空気圧送	75t/h	1		
	セメント C2 用空気圧送	75t/h	1		
	セメント C3 用空気圧送	75t/h	1		
	セメント C4 用空気圧送	75t/h	1		
	細・粗骨材ベルトコンベアー	450t/h	1		
	上水道水揚水ポンプ	38t/h	1		
	上澄み水ポンプ	45t/h	1		
	地下水ポンプ	45t/h	1		

工程名	主要製造設備		公称能力 容量・精度	台 数	設備管理の概要	
計量	操作盤：日工電子工業（株）社製		LED 表示	1	日常点検・ 作動状態・ 整備  0 点確認、調整  ・ 静荷重検査 1 回以上／6 ヶ月	
	場内モニター		—	6		
	出荷管理システム		パシフィック システム	連動		1
	GPS システム					1
	品質管理システム		スミテム	—		6
	セメント	C1, C2, C3	選択	1600, 2kg		1
		C4		400, 0.5kg		1
	細骨材	S1, S2, S3	累加	4000, 5kg		1
	粗骨材	G1, G2, G3		4000, 5kg		1
	混和剤	AE1, AE2	選択	40, 0.05kg		1
		AE3, AE4, AE5		30, 0.05kg		1
		AD6		20, 0.02kg		1
	水	W1, W2	累加	700, 0.5kg		1
	スランプコントローラ			—		1
砂水分計 I/F			—	1	正常に作動すること	
容量変更装置 1～0.25 m <sup>3</sup> 刻み			0.1～3.3 m <sup>3</sup>	1	・ 表面水補正装置	
水分補正装置			0.1～19.9%	6	1 回以上／年	
容積割増補正装置			0.1～9.9%	1	・ 容量変更装置	
比率設定			0～100%	2	1 回以上／年	
過大過小粒			0～19.9%	1	・ ミキサータイマー	
ミキサータイマー			0～999 秒	1	1 回以上／年	
練り混ぜ	日工（株）社製 最大能力		128 m <sup>3</sup> /H	1	・ 練り混ぜ性能検査 1 回以上／年	
	強制二軸型ミキサー 練り混ぜ容量		3.3 m <sup>3</sup>			
積み込み	コンクリートホッパー		5.0 m <sup>3</sup>	1	付着物の有無	
	開閉ゲート			1	作動状態	
	車番表示機		5 台	2	正常に作動すること	
付帯設備	コンプレッサー		37kw	1	正常に作動すること	
			15kw	1		
集塵機		15kw	1			
排水処理	振動ふるい		5.5kw	2	目詰まり・作動・水位	
	クラッシュファイア		7.5kw	1	正常に作動すること	
	攪拌槽		80 m <sup>3</sup>	1	濾布の詰まり	
	アコーディオン式脱水機		5t/m <sup>3</sup>	1		
	中和装置		10 m <sup>3</sup> /h	1		
洗車設備	洗車設備		3 台	1	ポンプの作動状況	
記録	自動印字記録装置		連動方式	1	規格値以内の誤差 1 回以上／年	
			自動計算			



工程名	主要検査設備 (形式・銘柄)	公称能力 容量・精度	台数	設備管理の概要	
骨材試験設備	木枠ふるい	5mm	1	使用後の清掃	
	試験用ふるい	0.15～50mm	1		
	あらい試験用ふるい	0.075mm	1		
	電気恒温乾燥機	105±5℃	1		
	ロータップ	—	1		
	電子秤	10～60kg	1	1回以上/2年	
		5～31kg	1		
		0.1g～6.1kg	1		
	デシケータ	35cm	1	使用後の清掃	
	チャップマンフラスコ	500ml	4		
	ピクノメータ	500, 700ml	各2		
	漏斗	—	3		
	密度試験用フラスコ	500ml	4		
	密度・吸水試験用かご	200×200	1		
	表面水測定用容器		1		
	試料分取器	細骨材	500ml		各1
		粗骨材			
	細骨材用フローコーン	—	一式		1回以上/6ヶ月
	単位容積質量マス	2L	1		
		10L	1		
ホーローバット	大・中・小	各4			
フレッシュ コンクリート	スパイラル強制二軸型 試験練りミキサー	60L	1	使用後の清掃	
	スランプ・フロー試験器具	—	各2		
	水平器	40cm	2	1回以上/6ヶ月	
	フローゲージ	80cm	2		
	温度計	0～100℃	10		
	ワシントン型エアメータ	7L	4		
	単位水量測定器(W/Cミータ)	—	1		
	モルタル分離機	—	1		
	塩化物含有量測定器 カンタブ標準品	0.05～0.5%			有効期限内であること
硬化 コンクリート	強度供試体用型枠	10×20	136	使用後の清掃	
	二分割型強度供試体用型枠		12		
	型枠測定器具	ノギス	—	1	・型枠検査 1回以上/年
		ダイヤルゲージ		1	
		直角度測定器		1	
		平面度測定器		1	
	研磨機	3連	1	・耐圧試験機 1回以上/6ヶ月の 定期検査	
	アムスラー型耐圧試験機	2000kN	1		
	養生水槽	4.5 m <sup>3</sup>	1		
恒温循環機	20±2℃	1			

#### 4. 受入れ検査における品質管理の概要

工程名	管理項目	頻度	管理基準	管理方法	
セメント 受入	JIS 品質規定	1 回以上/月	—	試験成績表	
	目視検査	1 回以上/車		伝票確認	
骨材受入	目視検査	1 回以上/車	限度見本比	伝票確認	
	粒度及び粗粒率	砕砂 (東谷)	1 回以上/月	2.50±0.15	品質基準に 定める 基準値を 満足すること
		砕砂 (茨城)		2.95±0.15	
		砕砂 (葛和田)		3.05±0.15	
		砕石 2010 (秋芳)		6.97±0.20	
		砕石 1505 (秋芳)		6.21±0.20	
		砕石 2005 (葛和田)		6.60±0.20	
	絶乾密度	砕砂 (東谷)		2.50 以上	
		砕砂 (茨城)			
		砕砂 (葛和田)			
		砕石 2010 (秋芳)			
		砕石 1505 (秋芳)			
	吸水率	砕砂 (東谷)		3.0 以下	
		砕砂 (茨城)			
		砕砂 (葛和田)			
		砕石 2010 (秋芳)			
		砕石 1505 (秋芳)			
	粒形判定実積率	砕砂 (東谷)		54 以上	
		砕砂 (茨城)			
		砕砂 (葛和田)			
	単位容積質量 及び実積率	砕石 2010 (秋芳)		56 以上	
		砕石 1505 (秋芳)			
		砕石 2005 (葛和田)			
微粒分量	砕砂 (東谷)	3.0±2.0			
	砕砂 (茨城)				
	砕砂 (葛和田)	0.5±0.5			
	砕石 2010 (秋芳)				
	砕石 1505 (秋芳)				
	砕石 2005 (葛和田)				
安定性	砕砂 (東谷)	1 回以上/ 12 ヶ月	10 以下		
	砕砂 (茨城)				
	砕砂 (葛和田)				
	砕石 2010 (秋芳)	12 以下			
	砕石 1505 (秋芳)				
	砕石 2005 (葛和田)				
アルカリシリカ 反応性	砕砂 (東谷)	1 回以上/ 6 ヶ月	無害判定の 骨材		
	砕砂 (茨城)				
	砕砂 (葛和田)				
	砕石 2010 (秋芳)				
	砕石 1505 (秋芳)				
水	地下水	1 回以上/12 ヶ月	200mg/L 以下	試験成績表	
	混和剤	AE 減水剤・高性能 AE 減水剤	1 回以上/6 ヶ月		—

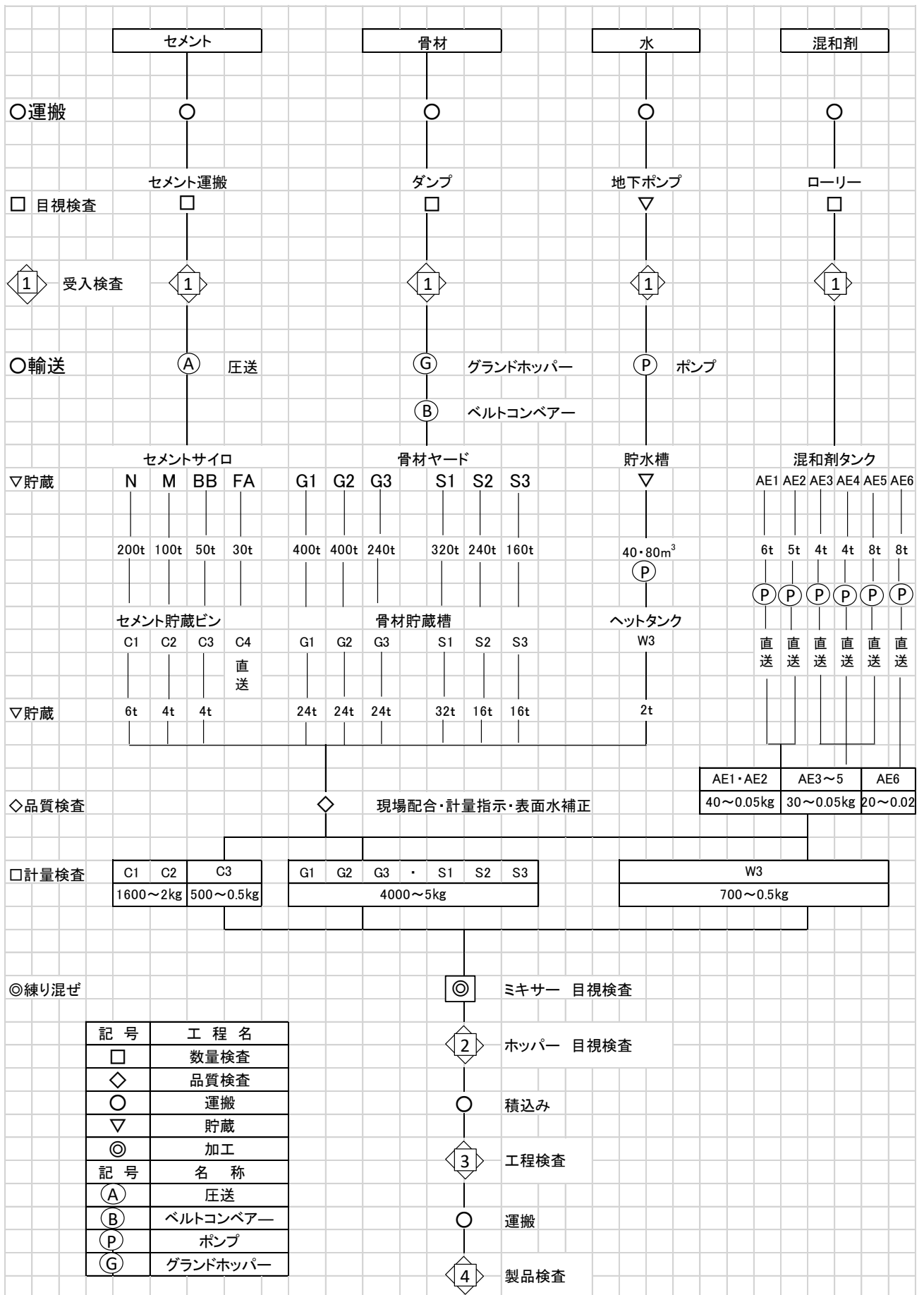
## 5. 製造工程中における品質管理の概要

工程名	管理項目		頻度	判定基準		管理方法	
				粗粒率	実績率		
骨材試験	粒度・実績率	砕砂（東谷）	1回以上/日	2.50±0.15	—	データシート	
		砕砂（茨城）		2.95±0.15			
		砕砂（葛和田）	1回以上/週	3.05±0.15			60.0 ±2.0%
		砕石 2010（秋芳）		6.97±0.20			
		砕石 1505（秋芳）		6.21±0.20			
		砕石 2005（葛和田）		6.60±0.20			
	表面水率	砕砂（東谷）	一回以上/午前 一回以上/午後	10%以下			
		砕砂（茨城）					
		砕砂（葛和田）					
		砕石 2010（秋芳）	1回以上/週				
		砕石 1505（秋芳）					
		砕石 2005（葛和田）					
フレッシュコンクリート試験	スランプ		一回以上/午前 一回以上/午後	目標スランプ＝ ロス値±許容差 8～18cm： ±2.5cm *21cm： ±1.5cm  *呼び強度27以上で、 高性能 AE 減水剤を 使用する場合は±2 とする。	X管理図 ヒストグラム  ロス値は期間や 運搬時間を考慮 し定める		
	空気量			目標空気量＝ (指定値+ロス値) ±許容差(%) (4.5+0.5)±1.5%	X管理図 ヒストグラム ロス値は期間や 運搬時間を考慮 し定める		
	圧縮強度		1回以上/日	2.5σ管理	X-Rs管理図 ヒストグラム		
	コンクリート温度		一回以上/午前	5～38℃	管理図		
	単位水量		一回以上/午後	単位水量±15kg	データシート		
	容積		1回以上/月	1.005以上			
	塩化物含有量			0.30kg/m <sup>3</sup> 以下			
	運搬時間		全数	伝票発時間から 現着 90分以内	運搬規定による		

## 6. 荷卸し地点における品質管理の概要

工程名	管理項目	頻度	管理基準	管理方法
製品検査	スランプ	1 回以上/150 m <sup>3</sup>	指定スランプ±許容範囲 8~18cm 以下：±2.5 21cm 以下：±1.5 21*cm 以下：±	X 管理図 ヒストグラム
	空気量		*呼び強度 27 以上で、高性能 AE 減水剤を使用する場合は±2 とする	
	圧縮強度		指定空気量±許容差 4.5±1.5%	
	容積	1 回以上/月	納入書記載量以上	データシート
	塩化物含有量		0.30kg/m <sup>3</sup> 以下	
	コンクリートの温度	供試体作成時	5~38℃の範囲内	
	運搬管理	1 車毎	社内規格運搬規定に基づき遵守	運転日報
	購入者指定事項	—	購入者により指定された基準・規格を満足すること	

# 7. フローシート（製造工程図）



## 8. 工場位置図

最寄り駅：JR総武線「新小岩」駅

バス：新小岩駅南口4番のりば 京成バス新小71系統「瑞江駅行」又は「江戸川スポーツランド行」  
農業試験場バス停下車

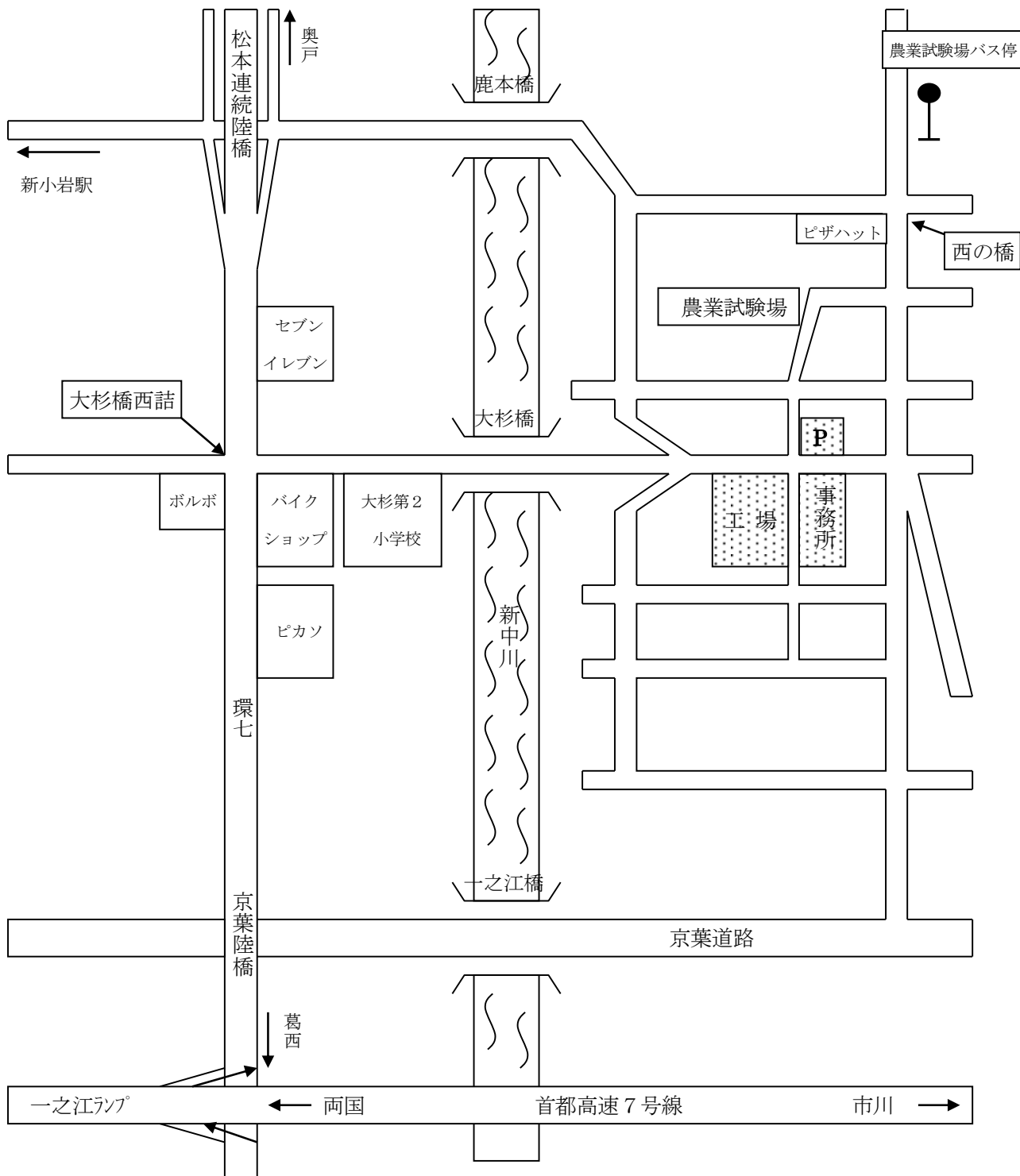
距離：約 2 km

所要時間：バス20分+徒歩10分

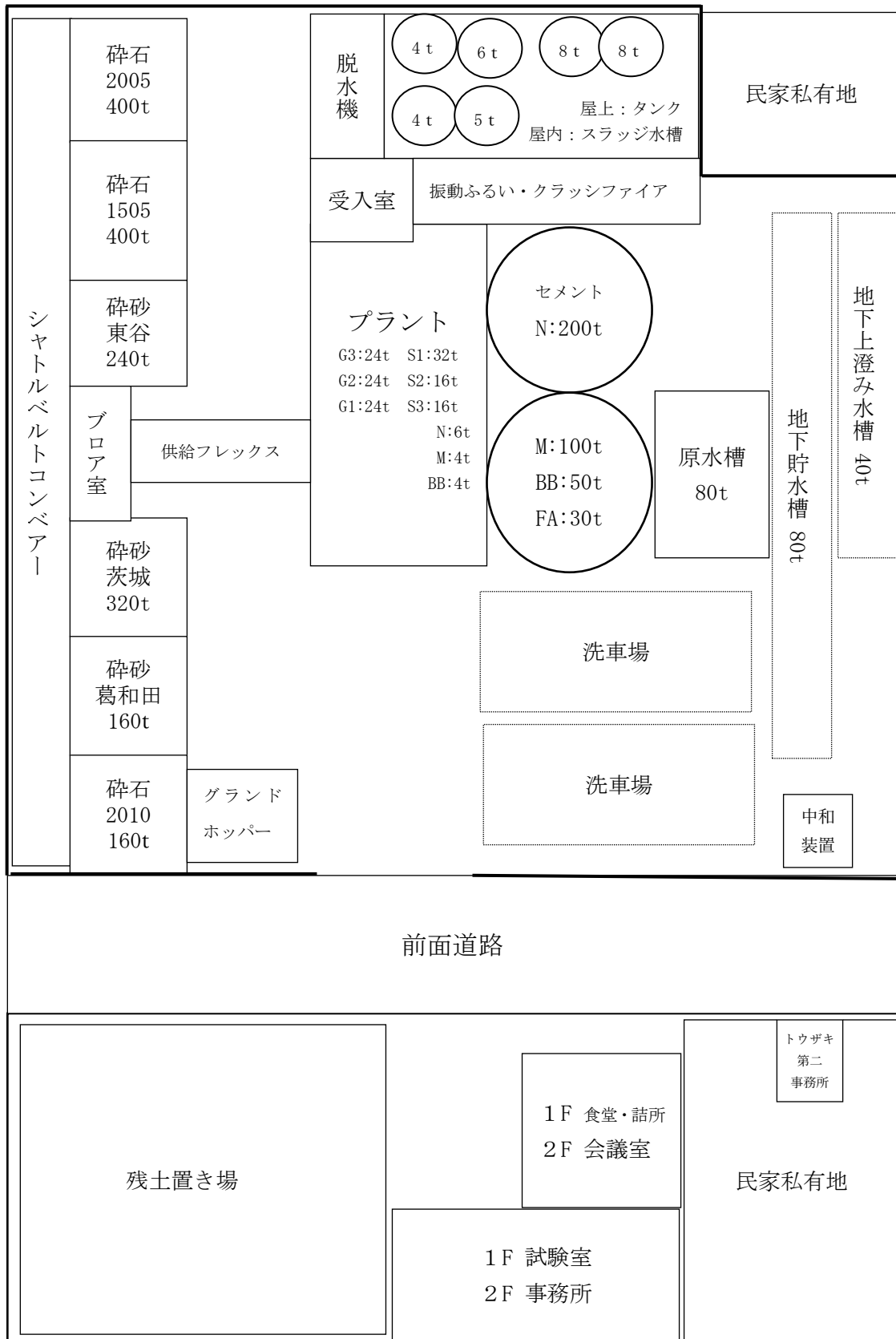
株式会社 トウザキ

東京都江戸川区鹿骨1-8-12

TEL03-3679-2391



# 9. 工場配置図



## 10. 運搬車両及び車両設備



アジテータートラック 諸元表

	最大積載量 (m <sup>3</sup> )	長さ (mm)	幅 (mm)	高さ (mm)
11.5t 車 (低床大型)	5.00	7700	2490	3800
11.0t 車 (低床大型)	4.75	7670		
10 t 車 (大型)	4.25	7940		
8 t 車 (中型)	3.25	6420	2250	3430
3 t 車 (小型)	1.25	5360	1880	2830

※幅にはミラーは含みません。高さは無積載時(積載時は車高が下がります)。

シュートの長さは1m程度。補助シュートはおよそ40~60cm程度。

また、車種や年式により多少の差異が生ずる場合があります。

### ・GPS動態管理システム

車両の動態(位置、速度、納車、現場待機、荷卸し、回送)管理し、的確な納入を心掛けています。

### ・ホッパーカバー

降雨時、製品に雨水が入らない為に装備しているものですが、当工場では天候に関わらず必ずカバー掛けを行います。

### ・固定洗浄水受

洗浄水の水垂れを防止し、現場内・公道・工場構内を汚さない効果を期待し装備しました。また、バケツに受けた洗浄水をドラムに戻す危険作業をなくし、ドライバーの安全を確保しました。



